

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (文学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	劉 傑
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) 程度副詞に関する中日対照研究			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)			教授 高永 茂
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)			教授 河西 英通
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)			教授 今田 良信
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	島根県立大学・教授		犬塚 優司
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、中国語と日本語の程度副詞の異同と特徴を意味的側面と統語的側面から究明しようとした論考である。全体は7章から成る。</p> <p>第一章では先行研究を整理し、本研究の位置づけを述べる。</p> <p>第二章では、行為量の規定の仕方という観点から程度副詞と行為動詞の共起について考察を行う。まず日本語の量的程度副詞が行為動詞もしくは存在動詞を修飾する際の意味を考察し、程度副詞の語彙的意味による共起制限を分析する。そのうえで中国語の程度副詞と対照して共通点と相違点を述べ、さらに中国語の“稍微”類には日本語の程度副詞に見られる共起制限がない理由を明らかにする。</p> <p>第三章では“更”と「もっと」を中心に、比較専用の程度副詞を考察する。まず、中国語の“更”の意味機能を分析するために、同じ比較専用の程度副詞“还”と比較する。次に“更”の意味機能を踏まえて、日本語の「もっと」との相違点を、(A) 比較対象と比較基準の程度の大小関係に関する推測の可否、(B) 比較基準の程度の位置づけ、(C) 比較基準が明示されないことによる相違という三点から分析し各々の特徴を整理する。</p> <p>第四章では日本語の「多少」と中国語の“多少”を例に、程度小の程度副詞の評価性を論じる。本章では次の三点を指摘する。(1) 非比較構文に現れる場合、「多少(日)」「多少(中)」とも表現主体の期待値に達していないため、プラス評価の表現と共起しにくい。(2) “多少(中)”は譲歩節と逆接の従属節にほとんど現われないのに対して、「多少(日)」はそれらの従属節に出現することが多い。これは、「多少(日)」が、「程度が小さい」という側面に注目することを意味する。(3) 比較構文に用いられる場合、「多少(日)」はプラス評価の意味もマイナス評価の意味も表すことができる。それに対して、“多少(中)”は「程度が小さいが、比較基準より比較対象のほうがました」という意味でのプラス評価しか表せない。</p> <p>第五章では程度副詞と否定形式の共起について考察する。中国語の“不+程度副詞+P”“程度副詞+不+P”の二つの構文と、日本語の「程度副詞+不(接頭辞)」「程度副詞+ない(否定辞)」の二つの構文とを対照させる。中国語においても日本語においても程度副詞が否定のスコープ内に入らない場合は主節で否定形式と共起し否定表現が表す事態の程度を規定することができるが、日本語では比較専用の程度副詞と「あまりに(も)」を除き、程度副詞はスコープ外に位置することが不可能であることを明らかにする。</p>			

第六章では程度副詞と願望表現の共起について考察し次の三点を指摘する。(1) 行為の度合いを表す程度副詞は、一定の条件のもとで願望の命題内容にあたる行為や状態の程度を規定することができる。

(2) 静的事態の程度を表す程度副詞は、願望の外側から願望の程度を規定することができるが、願望の命題内容にあたる行為を規定することができない。(3) 中国語では、静的事態の程度を表す“更”類は願望の命題内容にあたる状態の程度を規定することができる。

第七章では結論と今後の展望を述べる。

本論文は、中国語と日本語を対照させながら、程度副詞の使用制限について語彙的意味と統語的な特徴の両面から詳細に分析している点が高く評価できる。これまで副詞ごとの機能に集中していた研究に新たな展開をもたらすことが期待される。そのなかでも「否定のスコープ」という着想は独創的であり、副詞研究の発展に寄与するものである。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)